

平成30年度
(2018年度)

私費外国人留学生募集要項

出願期間 平成30年(2018年)
1月4日(木)～1月10日(水)(必着)

入試実施日 平成30年(2018年)1月28日(日)

平成30年(2018年)4月
入学者用の学生募集要項です。



大阪教育大学
OSAKA KYOIKU UNIVERSITY

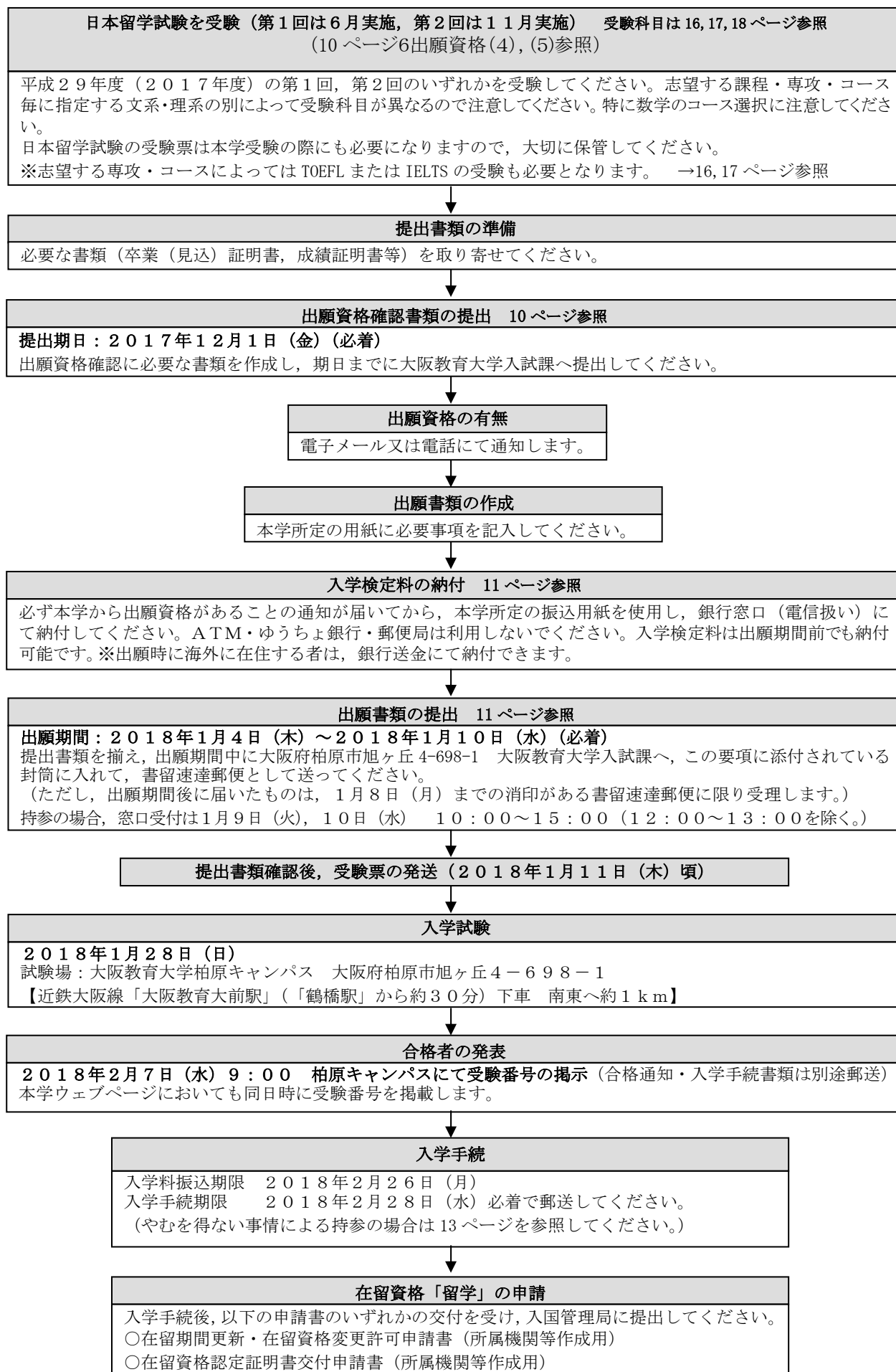
目 次

1	出願から入学手続までの流れ……………	1
2	募集人員……………	2
3	アドミッション・ポリシー (入学者受入方針) ……………	2
4	ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与方針) ……	4
5	カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施方針) ……	6
6	出願資格……………	10
7	出願資格確認……………	10
8	出願手続……………	11
9	入学者選抜方法……………	13
10	検査日程……………	13
11	入学試験場……………	13
12	合格者の発表……………	13
13	入学手続等……………	13
14	その他……………	15

この募集要項には、次の出願書類等（所定用紙）を添付していますので確認してください。

- 入学志願票
- 写真票・受験票・入学検定料振込金証明書貼付用紙
- 入学検定料振込依頼書
- 外国人留学生出願資格確認申請書(学部)
- 出願用封筒
- 受験票返送用封筒
- あて名票
- 写真用シール

1 出願から入学手続までの流れ



2 募集人員

【初等教育教員養成課程】
【学校教育教員養成課程】
【養護教諭養成課程】

募集区分毎に若干人
(初等教育教員養成課程 小学校教育専攻 夜間コースを除く。)

【教育協働学科】

- ・教育心理学専攻 5人
- ・理数情報専攻 5人
- ・グローバル教育専攻 15人
- ・上記以外の募集区分は、募集区分毎に若干人

3 アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

「大阪教育大学アドミッション・ポリシー」

1. 基本理念・目標

大阪教育大学は、我が国の先導的な教員養成大学として、教育の充実と文化の発展に貢献し、とりわけ教育界における有為な人材の育成をとおして、地域と世界の人々の福祉に寄与する大学であることを使命としています。この使命を達成するため、大阪教育大学では人と真摯に向き合う姿勢を基に、学生一人ひとりの個性を尊重した教育を推進していきます。

教育学部にあつては、グローバルな視野と豊かな教養を身に付け、専門的知識・技能及び優れた教育指導力を持った学校教員を養成するとともに、チーム学校を含む学校教育や地域教育活動を取り巻く分野（教育心理学、健康安全科学、理数情報、グローバル教育、芸術表現、スポーツ科学）の専門性を有しつつ、教育的視点から学校、家庭、地域、社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な教育課題の解決を図ることができる人材の養成をめざします。

大学院教育学研究科にあつては、教育科学の最新知識や研究成果の探求、教科教育・教科内容に関する高度な知識や研究手法の修得をとおして、教育現場で主導的な役割を担える教員の育成をめざしています。また、現代社会の多様な課題に対応できる探求能力を養い、様々な職業分野で課題解決能力を持って主導的立場を担える人材の育成をめざしています。

大学院連合教職実践研究科にあつては、教育委員会や学校現場との密接な連携の下での教員養成や現職教員教育を通じて、教員志望学生や現職教員学生に学校現場での課題に即応できる実践的知識・技能を拡充させるための視点と方法を獲得させ、もって学校における高度の専門的な能力及び優れた資質を有する専門職としての人材の育成をめざしています。

なお、本学では教育学部及び大学院において外国人留学生の受入れを積極的に進めています。

2. 求める学生像

(教育学部)

- ・子どもの未来への使命感と教職への意欲や強い関心を持つ人
- ・教員として教育現場を担える十分な基礎学力と旺盛な探求心を持つ人
- ・幅広く専門分野を学ぶことにより広い視野や柔軟な思考力の修得をめざす人
- ・現代社会への幅広い関心と自らの課題意識を持って積極的に社会参画をめざす人

(大学院教育学研究科)

- ・教職に関する高度な知識の修得と学校教育の今日的課題の探求に意欲を持つ人
- ・自らの教職経験をもとに専門的な教職能力の向上や開発に意欲を持つ現職教員
- ・高度な先端知識の修得と複雑かつ多様な課題の解決能力の修得に意欲のある人
- ・現職経験をもとに自らの職能向上や研究能力の修得に意欲のある社会人

(大学院連合教職実践研究科)

- ・学校や地域の指導的・中核的な教員として高度で優れた実践力の獲得をめざす現職教員
- ・新しい学校づくりの担い手として自ら学び続けることで実践的指導力の獲得をめざす人

(外国人留学生)

上記の教育学部若しくは大学院の求める学生像に加えて、次のような人を求めています。

- ・一定の日本語能力と大学教育を受けるに必要な基礎学力を持つ人
- ・日本の文化や社会についての理解や経験を活かして国際的に活躍することをめざす人

3. 入学者選抜の基本方針

本学では、各募集区分の基本理念・目標等にふさわしい学生を受け入れるために、次の入学者選抜を実施します。

教育学部においては、一般入学試験（前期日程・後期日程）、学部推薦入学試験、学部私費外国人留学生入学試験、第二部第3年次編入学試験の多様な入学者選抜を実施します。

大学院においては、大学院入学試験を実施します。

特別支援教育特別専攻科においては、特別支援教育特別専攻科入学試験を実施します。

「初等教育教員養成課程アドミッション・ポリシー」

1. 基本理念・目標

初等教育教員養成課程では、グローバルな視野と豊かな教養を身につけ、幼稚園と小学校との連携をふまえた専門的知識・技能及び優れた実践力・応用力を有する教員を養成します。そのために、教養科目及び基礎的科目を修得しながら、教職に関わる科目を幅広く学ぶとともに、一人ひとりの子どもの人権や安全を守る教育についての知識や能力を養い、幼児教育と小学校教育の双方の専門分野について学修を深めます。

本課程に置く「幼児教育専攻」では、幼児を理解する力や豊かな表現力を身に付け、小学校教育との接続を踏まえた幼児教育について総合的な視点をもつ実践力のある幼稚園教員の養成を目的としています。

「小学校教育専攻」の昼間コースでは、児童を理解する力や基礎的な指導力を身に付け、幼児教育との接続を踏まえた小学校教育について総合的な視点をもつ実践力のある小学校教員の養成を目的としています。

「小学校教育専攻」の夜間コースでは、昼間の勤労経験や教育現場でのインターンシップ活動など豊富な経験をもとに、豊かな人間性と社会性を備え、かつ、幼小連携に関心を持ち、優れた実践的能力を備えた小学校教員の養成を目的としています。なお、夜間コースの編入生に対しては、学生一人ひとりの学歴や専門性を活かして優れた実践的能力を備えた小学校教員の養成を目的としています。また、現職教員についても、個性や経歴を尊重した教育を行います。

2. 求める学生像

- ・教職に就くことを強く希望し、その意思を持ち続けることのできる人
- ・教育や子どもの発達について、強い興味・関心と問題意識を持っている人
- ・明朗で協調性に富み、多様な人とのコミュニケーションが図れる人
- ・学校現場での豊富な体験や子どもとのふれあいなどを通して、確かな教育実践力を身に付けようとする人
- ・高等学校等で履修した教科・科目全般にわたる基礎学力を十分に身につけ、ICTの活用に積極性のある人

「学校教育教員養成課程アドミッション・ポリシー」

1. 基本理念・目標

学校教育教員養成課程では、広い視野と豊かな教養を身に付け、専門的知識・技能及び優れた教育指導力を持った学校教員を養成します。そのために、教養科目及び基礎的科目を修得した上で、教職に関わる科目を学ぶとともに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養い、さらに、自らが所属する「専攻」において、専門分野の学修を深めます。本課程に置く「特別支援教育専攻」では、特別支援教育に関する知識や優れた技能を持ち、特別支援学校及び通常の学校で特別支援教育に携わる教員の養成を目的としています。「小中教育専攻」では、小・中学校の教育に関する知識や技能を持ち、専門の教科などに優れ、小・中学校の連携を踏まえた指導ができる小学校教員の養成を主目的としています。「中等教育専攻」では、専門の教科を中心に優れた教育指導力を持ち、中学校と高等学校の接続や一貫教育を踏まえた指導ができる中学校教員・高等学校教員の養成を目的としています。

2. 求める学生像

- ・高等学校で履修した教科・科目の基礎学力を十分に身に付けた人
- ・教職に就くことを強く希望し、その意志を持ち続けることのできる人
- ・子どもたちの成長に関わることにやりがいと使命を感じることが出来る人
- ・多様な年齢の人々とコミュニケーションを図る能力を身に付けようとしている人
- ・学校生活の経験をとおして、学校や教育への親しみや関心を抱いている人
- ・特別支援教育専攻では、特別支援学校及び通常の学校で特別支援教育に携わる教員をめざすために十分な教育実践力を身に付けようとする意欲あふれる人
- ・小中教育専攻では、得意分野を中心に、小学校教員や中学校教員をめざすために十分な教育実践力を身に付けようとする意欲あふれる人
- ・中等教育専攻では、得意分野があり、その分野に関し中学校教員や高等学校教員としての十分な教育実践力を身に付けようとする意欲あふれる人

「養護教諭養成課程アドミッション・ポリシー」

1. 基本理念・目標

養護教諭養成課程では、教育学の基礎の上に、医学・看護学・養護学など、幅広い専門分野の基礎知識と実践能力を備え、健康を保持増進する能力を子どもたちが獲得できるように、様々な機会を捉え支援する資質を備えた養護教諭を養成します。そのため、幅広い教養教育の基礎の上に立って、各専門分野の学修を深めるとともに、臨床（病院）実習、養護実習などをとおして実践能力の向上をめざします。さらに、学校安全や危機対応についての知識や能力を養います。

2. 求める学生像

- ・養護教諭をめざすために必要な基礎学力があり、十分な教育実践力を身に付けようとする意欲にあふれた人

- ・養護教諭になることを強く希望し、その意志を持ち続けることのできる人
 - ・子どもたちの健康な学校生活を支援することにやりがいと使命を感じる人
 - ・人と明るく温かなコミュニケーションが図れる能力や個性を備えている人
- ※生物、化学を入学までに学修していることを前提として講義を行う

「教育協働学科アドミッション・ポリシー」

1. 基本理念・目標

多様化し、複雑化する現代社会においては、学校の教師だけで子どもの教育を支え、学校の教育だけで社会の教育を支えることは不可能になってきています。教育協働学科は、学校現場や社会で絶え間なく発生する教育課題を解決するために、チーム学校を含む学校教育や地域教育活動を取り巻く分野（教育心理学、健康安全科学、理数情報、グローバル教育、芸術表現、スポーツ科学）の専門性を有しつつ、教育的視点から学校、家庭、地域、社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な教育課題の解決を図ることができる人材の養成を目的とします。そのため、学校と連携・協働して学校や地域における諸課題に対して教育的視点から解決を図ろうとする意欲を有する人材、また、学校教育のみならず家庭教育や社会教育においても、他者と協働しつつ高度な指導や支援、マネジメントができる人材、さらに、グローバル時代の多様な教育課題の解決を図ることができる人材を養成します。

2. 求める学生像

- ・自ら専門性を有しつつ教育理解をもって多様な専門家や市民と協働し、生涯教育社会における学校と地域社会と共に多様な教育課題の解決を図ることのできる人
- ・自らの専門分野で高度な知識や高い技能を修得し、それらを活用して学校、家庭、地域、社会において教育理解を持って連携・協働することに意欲のある人
- ・確かな学力と旺盛な知的好奇心、人間への深い愛情を持って、教育協働に資する分野で活躍したいと考えている人

4 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

「教育学部ディプロマ・ポリシー」

所定の単位を修得することによって、豊かな教養と知性ととともに、優れた教職能力をもって教育現場を担える人材と認められる者、又は教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することによって、グローバル時代における多様な課題の解決を図る人材と認められる者に学士（教育学）の学位を授与する。

「初等教育教員養成課程ディプロマ・ポリシー」

豊かな教養と知性ととともに、優れた教職能力をもって教育現場を担える教諭と認められる者として共通に必要なとされる資質・能力について、次のとおり設定する。

（1）豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

（2）学校教育の基礎的理解

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程（特別な支援を必要とする子どもの心身の発達と学習の過程を含む。）についての基礎的な理解ができている。
- ・学校教育に関する制度や経営的事項、並びに学校安全、特別なニーズのある子どもの教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・教育課程の意義や編成、教育の方法や技術（情報機器の活用を含む。）についての理解をしている。

（3）指導内容の理解と実践力

- ・保育の各領域や小学校の各教科を指導するために必要な内容の理解を深め、それらについての指導方法の基本を身に付けている。
- ・保育環境や学習環境の整備、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりを行うことができる。
- ・保育や授業を分析する基本を身に付け、教材研究を行いながら、保育や授業を構想することができる。

（4）子どもへの対応の理解

- ・子ども理解に基づいて、幼児・児童の指導と教育相談の理論及び実践的な方法について修得している。
- ・特別なニーズや、いじめ、不登校などの指導上の課題への対応方法を理解している。
- ・道徳教育の理論及び指導法や特別活動の指導法について理解している。

（5）教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、幼児・児童と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。

- ・チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

「学校教育教員養成課程ディプロマ・ポリシー」

豊かな教養と知性ととも、優れた教職能力をもって教育現場を担える教諭と認められる者として共通に必要なとされる資質・能力について、次のとおり設定する。

(1) 豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

(2) 学校教育の基礎的理解

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができています。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程（特別な支援を必要とする子どもの心身の発達と学習の過程を含む。）についての基礎的な理解ができています。
- ・学校教育に関する制度や経営的事項、並びに学校安全、特別なニーズのある子どもの教育及び英語教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・教育課程の意義や編成、教育の方法や技術（情報機器の活用を含む。）についての理解をしている。

(3) 指導内容の理解と実践力

- ・小学校・中学校・高等学校の各教科、特別支援教育の各領域を指導するために必要な内容についての理解を深め、学習指導方法の基本を身に付けている。
- ・学習環境の整備やアクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりを行うことができる。
- ・授業分析の基本を身に付け、教材研究を行いながら、学習指導や授業を構想することができる。

(4) 子どもへの対応の理解

- ・子ども理解に基づいて、児童・生徒の指導と教育相談の理論及び実践的な方法について修得している。
- ・特別なニーズや、いじめ、不登校などの生徒指導上の課題への対応方法を理解している。
- ・道徳教育の理論及び指導法や特別活動の指導法について理解している。

(5) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。
- ・チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

「養護教諭養成課程ディプロマ・ポリシー」

豊かな教養と知性ととも、優れた教職能力をもって教育現場を担える養護教諭と認められる者として共通に必要なとされる資質・能力について、次のとおり設定する。

(1) 豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

(2) 学校教育の基礎的理解

- ・教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができています。
- ・子どもの心身の発達と学習の過程（特別な支援を必要とする子どもの心身の発達と学習の過程を含む。）についての基礎的な理解ができています。
- ・学校教育に関する制度や経営的事項、並びに学校安全、特別なニーズのある子どもの教育及び英語教育に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- ・教育課程の意義や編成、教育の方法や技術（情報機器の活用を含む。）についての理解をしている。

(3) 養護実践力

- ・養護の理念や思想、養護学、学校保健や学校安全に係る基礎理論・知識を学び、養護教諭の役割を明確に理解している。
- ・健康観察や健康診断の意義や方法、保健室の役割やその機能について理解している。
- ・子どもの心身の健康に関して、健康相談や救急処置に係る基礎的な知識・技能を身に付けている。

(4) 子どもへの対応の理解

- ・子ども理解に基づいて、幼児・児童・生徒の指導と教育相談の理論及び実践的な方法について修得している。
- ・特別なニーズや、いじめ、不登校などの生徒指導上の課題への対応方法を理解している。
- ・道徳教育の理論及び指導法や特別活動の指導法について理解している。

(5) 教職力量を自らひらく力

- ・実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- ・自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し、将来への見通しや計画を立てることができる。
- ・チーム学校の構成員として、他者と協働して課題の解決に取り組むことができる。

「教育協働学科ディプロマ・ポリシー」

豊かな教養と知性ととともに、教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することによって、グローバル時代における多様な課題の解決を図る人材と認められる者として共通に必要なとされる資質・能力について、次のとおり設定する。

(1) 豊かな教養と広い視野

- ・人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解に加え、キャリア形成に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を身に付けている。
- ・世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けている。

(2) 教育理解

- ・社会や教育現場のグローバル化に対応し、学校や地域等と連携・協働しながら課題解決にあたる教育協働人材としての意欲や態度を身に付けている。
- ・教育の理念や歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解等の教育の基礎理論、及び学校安全に関する理解を含む教育についての基礎的知識を身に付けている。

(3) 協働力

- ・他者と協働して問題を分析し、その課題を整理することができる。
- ・他者と協働して課題解決に向けてのプランを策定することができる。
- ・課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を身に付けている。

(4) 専門的知識・技能

- ・所属する専攻・コースの分野に係る専門的知識・技能を備えている。
- ・専門的知識・技能を用いて、専門分野に関わる内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる。
- ・専門的知識・技能を主体的に活用し、行動することができる。

(5) 教育協働実践力

教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる。

5 カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

「教育学部カリキュラム・ポリシー」

教育学部のカリキュラムは、卒業認定・学位授与の方針を踏まえ、教育学部各課程・学科において定める卒業時に必要とされる資質・能力を育成することを目的として、体系的に編成し、実施するものとする。

「初等教育教員養成課程カリキュラム・ポリシー」

豊かな教養と知性ととともに、優れた教職能力をもって教育現場を担える教諭と認められる者として共通に必要なとされる資質・能力を育成することを目的として、カリキュラムは以下のとおり編成し、実施するものとする。

(1) 豊かな教養と広い視野

教養教育では、人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解や、キャリア形成に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を育成するとともに、世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けることを目的として、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成する。

(2) 学校教育の基礎的理解

教育の理念や歴史、思想および学校教育を取り巻く文化や社会と歴史、学校安全並びに人権尊重、地域との連携を含む学校教育の制度や経営について理解するとともに、教職の意義や教員の職務、学級担任の役割や子どもについて基礎的な理解（幼

児、児童及び生徒の発達や特別な支援の必要を含む。)及び教育課程の意義や編成,教育の方法や技術(情報機器の活用を含む。)についての理解を深めることができるよう、「教育総論」や「発達と学習の心理学」,「学校の役割と経営」や「教育課程・方法論」などの教職専門科目を体系的に編成する。

(3) 指導内容の理解と実践力

保育における各領域や小学校の各教科を指導するために必要なそれらの内容についての理解を深め,それらについての指導方法の基本を修得し,保育環境や学習環境の整備,アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力や,保育や授業を分析する基本を身に付け,教材研究を行いながら,保育や授業を構想することができる能力を育成するため,保育内容指導法科目,小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目,専門教育としての幼稚園教育専門科目,教職や教育実践,教科教育からなる系列専門科目などの科目を体系的に編成する。

(4) 子どもへの対応の理解

子ども理解に基づく幼児・児童の指導と教育相談の理論及び実践的な方法を修得し,特別なニーズや,いじめ,不登校などの指導上の課題への対応方法や,道徳教育の理論及び指導法や特別活動の指導法について理解することができるよう,「教育相談の心理学」や「幼児理解と教育相談」,「特別活動論」や「道徳教育論」などの教職専門科目,「インクルーシブ教育システム論」などの教職基礎科目を体系的に編成する。

(5) 教職力量を自らひらく力

実践的な教育活動に参加し,幼児・児童と積極的にコミュニケーションをとることができる能力や,自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し,将来への見通しや計画を立てることができる能力,チーム学校の構成員の視点から他者と協働して課題の解決に取り組むことができる能力を育成するため,学校インターンシップ科目や「教育実習」などの教職関連科目,「教職実践演習」などの教職専門科目を体系的に編成する。

(6) その他

- ・各授業は,講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- ・成績評価は,プレゼンテーション,レポート,試験など,多様な方法により行うものとするとともに,どのように成績に反映されるか,シラバスに明記するものとする。
- ・指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し,授業改善に取り組むものとする。

「学校教育教員養成課程カリキュラム・ポリシー」

豊かな教養と知性ととともに,優れた教職能力をもって教育現場を担える教諭と認められる者として共通に必要なとされる資質・能力を育成することを目的として,カリキュラムは以下のとおり編成し,実施するものとする。

(1) 豊かな教養と広い視野

教養教育では,人文,社会,自然,芸術,スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解や,キャリア形成に向けた,ICTスキル,言語運用能力,コミュニケーション力,および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を育成するとともに,世界の多様性を理解し,異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けることを目的として,「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目,体育科目,ICT科目を体系的に編成する。

(2) 学校教育の基礎的理解

教育の理念や歴史,思想および学校教育を取り巻く文化や社会と歴史,学校安全並びに人権尊重,地域との連携を含む学校教育の制度や経営について理解するとともに,教職の意義や教員の職務,学級担任の役割や子どもについて基礎的な理解(幼児,児童及び生徒の発達や特別な支援の必要を含む。)及び教育課程の意義や編成,教育の方法や技術(情報機器の活用を含む。)についての理解を深めることができるよう,「教育総論」や「発達と学習の心理学」,「学校の役割と経営」や「教育課程・方法論」などの教職専門科目を体系的に編成する。

(3) 指導内容の理解と実践力

小学校・中学校・高等学校の各教科及び特別支援教育の各領域を指導するために必要なそれらの内容についての理解を深め,学習指導方法の基本を修得し,学習環境の整備,アクティブ・ラーニングを取り入れた指導計画の立案や授業づくりができる能力や,授業分析の基本を身に付け,教材研究を行いながら,学習指導や授業を構想することができる能力を育成するため,小学校の各教科に係る教科専門科目及び指導法科目,専門教育としての教育科学(教育学・心理学・道徳教育学)や,中・高等学校の各教科内容に係る高度な理解に資するコース専門科目,特別支援教育専門科目を体系的に編成する。

(4) 子どもへの対応の理解

子ども理解に基づく児童・生徒の指導と教育相談の理論及び実践的な方法を修得し,特別なニーズや,いじめ,不登校などの生徒指導上の課題への対応方法や,道徳教育の理論及び指導法や特別活動の指導法について理解することができるよう,「生

徒指導・進路指導論」や「教育相談の心理学」, 「特別活動論」や「道徳教育論」などの教職専門科目, 「インクルーシブ教育システム論」などの教職基礎科目を体系的に編成する。

(5) 教職力量を自らひらく力

実践的な教育活動に参加し, 児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる能力や, 自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し, 将来への見通しや計画を立てることができる能力, チーム学校の構成員の視点から他者と協働して課題の解決に取り組むことができる能力を育成するため, 学校インターンシップ科目や「教育実習」などの教職関連科目, 「教職実践演習」などの教職専門科目を体系的に編成する。

(6) その他

- ・各授業は, 講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- ・成績評価は, プレゼンテーション, レポート, 試験など, 多様な方法により行うものとするとともに, どのように成績に反映されるか, シラバスに明記するものとする。
- ・指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し, 授業改善に取り組むものとする。

「養護教諭養成課程カリキュラム・ポリシー」

豊かな教養と知性ととともに, 優れた教職能力をもって教育現場を担える養護教諭と認められる者として共通に必要なとされる資質・能力を育成することを目的として, カリキュラムは以下のとおり編成し, 実施するものとする。

(1) 豊かな教養と広い視野

教養教育では, 人文, 社会, 自然, 芸術, スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解や, キャリア形成に向けた, ICTスキル, 言語運用能力, コミュニケーション力, および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を育成するとともに, 世界の多様性を理解し, 異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けることを目的として, 「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目, 体育科目, ICT科目を体系的に編成する。

(2) 学校教育の基礎的理解

教育の理念や歴史, 思想および学校教育を取り巻く文化や社会と歴史, 学校安全並びに人権尊重, 地域との連携を含む学校教育の制度や経営について理解するとともに, 教職の意義や教員の職務, 学級担任の役割や子どもについて基礎的な理解(幼児, 児童及び生徒の発達や特別な支援の必要を含む。)及び教育課程の意義や編成, 教育の方法や技術(情報機器の活用を含む。)についての理解を深めることができるよう, 「教育総論」や「発達と学習の心理学」, 「学校の役割と経営」や「教育課程・方法論」などの教職専門科目を体系的に編成する。

(3) 養護実践力

養護の理念や思想, 養護学, 学校保健や学校安全, 子どもの心身の健康に関する健康相談や救急処置に係る基礎理論・知識を学び, 養護教諭の役割を明確に理解するとともに, 健康観察や健康診断の意義や方法, 保健室の役割やその機能について理解することができるよう, 専門教育としての養護教育専門科目を体系的に編成する。

(4) 子どもへの対応的理解

子ども理解に基づく幼児・児童・生徒の指導と教育相談の理論及び実践的な方法を修得し, 特別なニーズや, いじめ, 不登校などの生徒指導上の課題への対応方法や, 道徳教育の理論及び指導法や特別活動の指導法について理解することができるよう, 「生徒指導論」や「教育相談の心理学」, 「特別活動論」や「道徳教育論」などの教職専門科目, 「インクルーシブ教育システム論」などの教職基礎科目を体系的に編成する。

(5) 教職力量を自らひらく力

実践的な教育活動に参加し, 幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる能力や, 自らの学修を記録などに基づいて分析・省察し, 将来への見通しや計画を立てることができる能力, チーム学校の構成員の視点から他者と協働して課題の解決に取り組むことができる能力を育成するため, 学校インターンシップ科目や「養護実習」などの教職関連科目, 「教職実践演習」などの教職専門科目を体系的に編成する。

(6) その他

- ・各授業は, 講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- ・成績評価は, プレゼンテーション, レポート, 試験など, 多様な方法により行うものとするとともに, どのように成績に反映されるか, シラバスに明記するものとする。
- ・指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的に開催し, 授業改善に取り組むものとする。

「教育協働学科カリキュラム・ポリシー」

豊かな教養と知性ととともに、教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することによって、グローバル時代における多様な課題の解決を図る人材と認められる者として共通に必要なとされる資質・能力を育成することを目的として、カリキュラムは以下のとおり編成し、実施するものとする。

(1) 豊かな教養と広い視野

教養教育では、人文、社会、自然、芸術、スポーツ等の学術的・実践的な基本知識・理解や、キャリア形成に向けた、ICTスキル、言語運用能力、コミュニケーション力、および論理的・批判的思考力からなる汎用基礎力を育成するとともに、世界の多様性を理解し、異文化・多文化を受容できる寛容な態度を身に付けることを目的として、「基盤教養科目」と「多様性理解科目」から構成する総合科目と7つの領域にわたる分野別科目とともに外国語科目、体育科目、ICT科目を体系的に編成する。

(2) 教育理解

社会のグローバル化に対応し、学校や地域等と連携の上、協働して課題解決にあたる教育協働人材としての基礎である教育の理念や教育の歴史及び思想、子どもの発達と心理の理解、教育制度全般や学校の組織と役割の理解などの教育の基礎理論や、学校安全の学修を通して、学校や地域における諸課題に対して教育的視点から解決を図ろうとする意欲や態度を醸成するため、教育基礎科目における「教育基礎セミナー」や「教育総論」、「学校の役割と経営」や「学校安全」などにより体系的に編成する。

(3) 協働力

他者と協働して問題を分析のうえ整理し、課題解決に向けてのプランを策定することができる能力や課題解決プランを他者と協働して実行するための実践力を育成するため、専門教育科目に教育協働科目を開設し、「教育協働概論」、「教育協働デザイン演習」などの協働共通科目、各自が所属する専攻に対応する専攻共通科目を体系的に編成する。

(4) 専門的知識・技能

所属する専攻・コースの分野に係る専門的知識・技能を備え、専門分野に関する内容やその意義を社会に向けて的確に伝達、表現することができる能力や、主体的に物事を考え、行動することに専門的知識・技能を活用できる能力を育成するため、専門教育科目において各自が所属する専攻に対応する専攻分野科目を体系的に編成する。

(5) 教育協働実践力

教育的視点から学校・家庭・地域・社会と連携・協働することで、グローバル時代における多様な課題を解決するために実践的に行動できる能力を育成するため、専門教育科目における教育協働科目「教育コラボレーション演習」、「外国語実践演習」、課題解決型学習（PBL）科目であるプロジェクト演習科目などにより体系的に編成する。

(6) その他

- ・各授業は、講義・演習・実験・実習などの方法により展開する。
- ・成績評価は、プレゼンテーション、レポート、試験など、多様な方法により行うものとするとともに、どのように成績に反映されるか、シラバスに明記するものとする。
- ・指導技術を向上させるための研修や教員同士での授業参観などを定期的で開催し、授業改善に取り組むものとする。

6 出願資格

次のすべてに該当する者

- (1) 日本の国籍を有しない者で、日本の永住許可を得ていない者（注1）
- (2) 次のア、イ、ウのいずれかに該当する者
 - ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び2018年3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
 - イ 下記のいずれかの資格を取得し、かつ、18歳に達した者
 - スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格
 - フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格
 - ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格
 - ウ 外国において、高等学校に対応する学校の課程（その修了者が当該外国の学校教育における11年以上の課程を修了したとされるものであることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを修了した者（2018年3月31日までに修了見込みの者を含む。）
- (3) 在留資格「留学」を取得している者又は入学までに取得できる見込みの者
- (4) 独立行政法人日本学生支援機構が実施する平成29年度（2017年度）日本留学試験（第1回、第2回のいずれか）を受験した者（注2～3）
- (5) 上記（4）の日本留学試験において「日本語」の総得点が230点以上の者

注1) 日本の国籍を有しない者であっても、日本の高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）を卒業した者又は同等以上の資格を取得した者、及び2018年3月31日までに卒業（取得）見込みの者は、この入試には出願できません。

注2) 日本留学試験の出題言語は日本語とします。

注3) 日本留学試験を受験の際には、別表1の科目区分（16～17ページ参照）及び別表2の受験科目等（18ページ参照）に従って、受験してください。

7 出願資格確認

事前に出願資格の確認を行いますので、出願希望者は2017年12月1日（金）（必着）までに下記の書類を郵送（書留とする）又は持参により大阪教育大学入試課に提出してください。特に海外からの郵送は時間がかかることもあるので、注意してください。なお、提出書類は返却しませんので、②、③については必ずコピーを送付してください。出願資格の確認後、結果を電子メール又は電話で連絡します。

- ①「外国人留学生出願資格確認申請書（学部）」（本学所定の用紙使用）
- ②出身学校（日本の高等学校に対応する学校）の修了（卒業）証明書のコピー又は同見込証明書のコピー及びその日本語訳
- ③在留資格及び在留期間を証明する書類（在留カードのコピー）
（③については、すでに日本に在留している方のみ提出してください。）

8 出願手続

(1) 提出書類等

書 類 等	摘 要
① 入学志願票	本学所定の用紙に必要事項を記入してください。(31ページ参照)
② 受験票・写真票・写真用シール	本学所定の用紙に必要事項を記入してください。 受験票及び写真票に「写真」を貼り付けてください。 (写真は、正面、上半身、脱帽の縦4cm×横3cmで3か月以内に撮影したものであり受験票・写真票とも同一のもの(写真の裏面に氏名を記入してください。))写真の上から、出願書類等に同封している本学所定の写真用シールを貼り付けてください。
③ 入学検定料振込金証明書貼付用紙(海外から送金した場合は外国送金依頼書のコピー)	本学所定の用紙に必要事項を記入の上、「入学検定料振込金証明書(大学提出用)」を貼り付けてください。(外国送金依頼書のコピーの場合は貼り付けずに提出すること。)(31ページ参照)
④ 修了証明書等	出身学校(日本の高等学校に対応する学校)の修了(卒業)証明書又は同見込証明書(注1)
⑤ 成績証明書	出身学校(日本の高等学校に対応する学校)の成績証明書(注1)
⑥ 国際バカロレア資格証書等	国際バカロレア資格を有する方は、国際バカロレア資格証書及び成績評価証明書を提出してください。
⑦ バカロレア資格試験成績証明書等	バカロレア資格を有する方は、バカロレア資格証書及びバカロレア資格試験成績証明書を提出してください。
⑧ 一般的大学入学資格証明書	アビトゥア資格を有する方のみ提出してください。
⑨ 日本留学試験の成績通知書	独立行政法人日本学生支援機構発行のもの(コピー)を提出してください。(注2) 日本留学試験の受験票は、大切に保管し、本学が発送する受験票(13ページ「11 入学試験場」参照)とともに入学試験当日に必ず持参してください。
⑩ 受験票返送用封筒	本学所定の封筒にあて先を明記し、切手372円分を貼り付けてください。(送付先が海外の場合は、提出は不要です。出願後に別に指示します。)
⑪ 住民票の写し	市区町村長発行の国籍・在留資格及び在留期間を明記したもの(すでに日本に在留している方のみ提出してください。) *出願者以外の世帯員については、証明不要です。
⑫ あて名票	合格通知等を受け取る際の郵便番号、住所、氏名、電話番号を記入してください。3枚とも記入してください。出願後住所変更した場合は、すみやかに届け出てください。(送付先が海外の場合は、提出は不要です。出願後に別に指示します。)
⑬ 伴奏用楽譜	音楽実技実施科目の歌曲及び声楽に必要な伴奏用楽譜は1ページの大きさをB5判(縦257mm×横182mm)とし、志願者氏名を明記してください。
⑭ 選択した課題曲等(音楽教育コースのみ)	音楽実技実施科目のピアノ及び声楽で選択した歌曲名(2曲)等についてはB5判の用紙(書式は任意)に、志願者氏名を明記のうえ提出してください。
⑮ TOEFL(iBT) Examinee Score Report または IELTS Test Report Form (英語教育コースのみ)	TOEFL受験者は、Educational Testing Service発行のもの(コピー)を提出してください。テスト形式はiBTとします。 IELTS受験者はIELTS Test Report Form(コピー)を提出してください。 なお、原本は入学試験当日必ず持参してください。

注1) 証明書等が日本語以外で記載されている場合は、**日本語訳**を添付して提出してください。

注2) 平成29年度(2017年度)日本留学試験の第1回(6月実施)、第2回(11月実施)のいずれか一方を提出してください。(両方を受験している場合は、第1回、第2回のいずれの成績を利用するか志願者が選択し、選択した一方のみ提出してください。)

(2) 入学検定料納付方法

出願資格の確認を受けてから、本学所定の振込依頼書に必要事項を記入し、金融機関の窓口(電信扱い)から振り込んでください。(ATM・ゆうちょ銀行・郵便局は利用しないでください。)

振込を済ませたら、銀行窓口で返還された書類のうち上記(1)の③「入学検定料振込金証明書(大学提出用)」に受付印が押されていることを確認し、入学検定料振込金証明書貼付用紙に貼り付けて、他の出願書類

とともに提出してください。

- ・入学検定料 17,000円 (振込手数料は出願者負担)
- ・出願時に海外に在住する方は、下記の口座へ銀行送金(円建て)にて納付してください(送金先の銀行で発生する手数料は本学が負担します。送金元の銀行で手数料が発生する場合は志願者が負担してください。)。なお、銀行から受け取る**外国送金依頼書のコピー**を他の出願書類とともに提出してください。

送金種類(Type of Remittance)	電信送金(Telegraphic Transfer)
支払方法(Payment Instruction)	通知払(Advise and Pay)
円為替手数料(Lifting Charge)	受取人負担(Payee's Account)
送金目的(Purpose of Remittance)	入学検定料(Screening Fee)
送金金額(Amount)	17,000円(17,000 yen)
メッセージ(Message)	04 志願者氏名(英文) ※
銀行名(Bank Name)	三菱東京UFJ銀行(The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.) (BIC:BOTKJPJT)
支店名(Branch)	藤井寺支店(Fujiidera Branch)
口座番号(Account Number)	普通預金 211-1448492 (Savings Account 211-1448492)
受取人名(Payee's Name)	大阪教育大学(OSAKA KYOIKU DAIGAKU)
銀行住所(Branch Address)	〒583-0026 大阪府藤井寺市春日丘1-1-33 (1-1-33 Kasugaoka, Fujiidera, Osaka, 583-0026, Japan)
大学住所等(Payee's Address)	〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1 (4-698-1 Asahigaoka, Kashiwara, Osaka, 582-8582, Japan) 電話番号: 072-978-3274

※ 数字の“04”と氏名を続けて記載してください。

(氏名が“George Washington”であれば、“04 George Washington”と記載してください。)

- ・出願後、一旦受理した入学検定料は、返還できません。

ただし、次の場合は、入学検定料の返還請求が可能です。(返還に係る振込手数料は請求者の負担となります。)なお、返還請求には入学検定料振込金証明書(大学提出用)が必要です。

ア) 入学検定料を払い込んだが、出願しなかった場合

イ) 入学検定料を払い込んだが、出願資格を有していないため出願書類が受理されなかった場合

ウ) 入学検定料を誤って二重に払い込んだ場合

上記ア)～ウ)に該当する場合は、大阪教育大学入試課までお問い合わせください。

電話 072-978-3324 (受付時間: 平日9:00～17:00) FAX 072-978-3327

・東日本大震災(2011年3月11日)及び熊本地震(2016年4月14日)により被災した志願者を対象に入学検定料の免除を行う場合があります。詳細は以下の本学ウェブページを参照してください。

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/admission/nyushi/kenteiryounenjyo.html>

(3) 出願期間

2018年1月4日(木)～1月10日(水)(必着)(入学検定料は出願期間前でも納付可能です。)

なお、出願期間後に届いたものは、1月8日(月)までの消印がある**書留速達郵便**に限り受理します。ただし、外国からの郵便は1月10日(水)必着とします。持参の場合、窓口受付は1月9日(火)、10日(水)10:00～15:00(12:00～13:00を除く。)です。

(4) 出願方法

入学志願者は、出願に必要な書類等を取りそろえ、

大阪教育大学入試課(〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1/4-698-1 Asahigaoka, Kashiwara, Osaka, 582-8582, Japan)へ、この要項に添付されている封筒に入れて、出願期間中に届くよう**書留速達郵便**で送ってください。持参の場合は入試課の窓口へ提出してください。

注1) 出願書類受理後は、記載事項の変更は認めません。また、記載事項が事実と相違していることが判明した場合は、合格又は入学許可を取り消すことがあります。

注2) 受理した出願書類は、いかなる理由があっても一切返還しません。

障がい又は病気その他の理由で、受験上の配慮を希望する方は、2017年12月1日(金)までに入試へご相談ください。(受付時間: 平日9:00～17:00)

電話 072-978-3324 FAX 072-978-3327

電子メール nyushika@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

本学は障がい学生修学支援ルームを設置しています。なお、本ルームは入学後に修学上の配慮を希望する方の事前相談にも応じています。

<問い合わせ先>障がい学生修学支援ルーム

電話・FAX 072-978-3479 (受付時間：平日9:00～17:00)

電子メール sienroom@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

9 入学者選抜方法

入学者の選抜は、独立行政法人日本学生支援機構が行う平成29年度(2017年度)日本留学試験の成績、本学が行う私費外国人留学生の選抜試験(以上別表1～6(16～30ページ)参照。)の成績、TOEFLまたはIELTSのスコア(必要とする専攻・コースのみ。別表1参照。)及び出身学校等の成績を総合して行います。

ただし、募集人員を定める募集区分(教育心理学専攻、理数情報専攻、グローバル教育専攻)について、日本留学試験の成績又は本学が行う試験の成績が著しく低い者については、募集人員に満たない場合でも、不合格とすることがあります。なお、大学入試センター試験は課しません。

10 検査日程

2018年1月28日(日)【時間については別表1(16～17ページ)を参照してください。】

11 入学試験場

大阪教育大学柏原キャンパス 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

【近鉄大阪線「大阪教育大前駅」(「鶴橋駅」から約30分)下車 南東へ約1km)

※エスカレーター(上り専用)、階段あり】

受験票返送(2018年1月11日(木)発送予定)時に同封の試験場案内図及び注意事項を確認してください。

12 合格者の発表

合格者の発表は、2018年2月7日(水)9:00柏原キャンパスにおいて、受験番号を掲示して行います。

合格者には、合格通知書及び入学手続関係書類を別途、特定封筒郵便物(日本郵便レターパックプラス(手渡し配達))で郵送しますので、合格者は必ず受け取ってください。2018年2月14日(水)までに入学手続関係書類が届かない場合は入試課(電話072-978-3324 受付時間：平日9:00～17:00)までお問い合わせください。

また、本学ウェブページ(https://osaka-kyoiku.ac.jp/admission/nyushi/goukaku_happyou.html)においても、同日時に掲載しますが、必ず合格通知書で確認してください。合格者の発表について、電話等による照会には、一切応じません。なお、大学周辺での合格電報等の勧誘・受付等は大阪教育大学とは一切関係ありません。

13 入学手続等

(1) 入学手続期限

2018年2月28日(水)必着で郵送してください。

※やむを得ない事情があつて、郵送で入学手続ができない場合には、事前相談のうえ、2018年3月1日(木)に持参(来学)による入学手続を認めます。なお、詳細については合格者に別途通知します。入学手続期限までに入学手続を完了しない者は、入学辞退者として取り扱います。

※本学受験票は、入学手続の際に必要となりますので大切に保管してください。

※本学に入学手続をした後、特別な事情により本学への入学を辞退する場合は、入学辞退願により、事前に電話連絡の上、入学手続関係書類に記載の期日までに柏原キャンパス内の入試課で入学辞退手続をしてください。所定の期限以降の入学辞退は一切できません。

ただし、入学手続をしなかった場合は、特に入学辞退の手続きをする必要はありません。

(2) 入学料及び入学時諸費用

ア 入学料 282,000円

入学手続後、既に納付した入学料は、いかなる理由があつても返還しません。(入学辞退の場合も同様。)

2018年2月26日(月)までに金融機関から振り込んでください。外国から送金する場合は振込手続に必要な日数を事前に確認のうえ、時間的な余裕を持って手続してください。

イ 入学時諸費用

大阪教育大学校友会 70,000円

注) 1 「大阪教育大学校友会」は、教育研究活動、大学行事、課外活動、福利厚生、奨学金給付及び就職への支援など様々な学生支援事業を行うとともに、在学生を含む卒業生、修了生の同窓会活動への支援を行う組織です。

2 入学時のみの費用です。

3 上記記載の金額は、変更される場合があります。詳細については、入学手続関係書類を参照してください。

(3) その他入学に必要な費用

授業料（前期分） 267,900円（年額 535,800円）

※本学では授業料の「口座振替制度」（口座引落とし）を実施しており、入学後、学生名義の預金口座から、前期分は4月に、後期分は10月に授業料を引き落とします。

注1）上記記載の金額は、2017年度入学者の金額であり、2018年度入学者については、変更される場合があります。なお、詳細については合格者に別途通知します。

注2）在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

注3）このほか、テキストや英語の資格・検定試験、実習及び課外活動等の経費は別途必要となる場合があります。

(4) ノートパソコンの必携化について

大阪教育大学では、ICT 基礎科目を中心とした授業でのパソコンの活用をはじめ、講義でのレポート作成や論文作成、教育実習など、大学生活の中で数多くの機会にパソコンとインターネットを活用します。

また、授業の履修登録や成績閲覧の手続き、授業課題の提出なども大学の Web サイトを通じて行います。みなさんの大学卒業時には、獲得した知識とスキルを教育現場や社会で十分に発揮できるように、自分専用のノートパソコンを用いてさまざまな活動を行ってもらうことを目的とし、平成 29 年度の学部新入生からノートパソコン必携としております。やむを得ない事情がない限り、入学までに自分専用のノートパソコンをご準備ください。

入学までにご準備いただくノートパソコンの必要条件

準備していただくノートパソコンは、大学が指定する必要条件を満たしていれば、すでにお持ちのノートパソコンを使用いただいても構いません。大学として、新たに特定のパソコンの購入をお願いするものではありません。詳しくは合格通知書に同封の「ノートパソコンの必携についてのご案内」でお知らせします。

なお、平成 29 年度学部新入生のノートパソコンの必要条件（最低限必要な機能・性能等）は、大阪教育大学のホームページ「ノートパソコンの必携化について」に掲載していますのでご参照ください。平成 30 年度の学部新入生の必要条件もほぼ同様となる予定です。

やむを得ない事情で、ノートパソコンの貸与を必要とされる方は、原則入学後 6 ヶ月間に限り大学から貸与します。貸与基準等は「ノートパソコンの必携化について」のページをご参照ください。

「ノートパソコンの必携化について」は以下の URL からご参照ください。

大阪教育大学 > 入学試験情報 > 入試・大学生活に関する各種情報 > ノートパソコン必携化
<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~ipc/byod/>

ノートパソコン必携化に関する問い合わせ窓口：大阪教育大学 柏原キャンパス 情報企画室
TEL：072-978-3772（平日 9 時～17 時）

(5) 入学料及び授業料免除制度等

入学料及び授業料の免除・徴収猶予制度があります。

ア 入学料免除

下記の対象者のいずれかに該当する方について、本人の申請に基づき選考の上、免除が許可された場合、入学料の全額又は半額が免除されます。

対象者	(ア) 本学入学前1年以内（2017年4月から2018年3月まで）において本人の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難であると認められる者 (イ) (ア) に準ずるやむを得ない事情があると認められる者 【単に収入が少ない(母子・父子世帯や失業など)だけでは対象となりません。】
-----	---

※入学料免除については、上記のとおり申請対象となる条件が限定されます。

イ その他（入学料徴収猶予・授業料免除等）

その他については以下の本学ウェブページを参照してください。詳細については合格者に別途通知します。

入学料免除等について <https://osaka-kyoiku.ac.jp/campus/gakusei/nyumen.html>

授業料免除等について <https://osaka-kyoiku.ac.jp/campus/gakusei/jyumen.html>

(6) 在留資格『留学』の申請について

『在留資格に係る申請書類交付願』を合格通知・入学手続関係書類とともに送付しますので、以下の申請書を入国管理局に提出する必要がある方は、『在留資格に係る申請書類交付願』に必要事項を記入して、入学手続後に大阪教育大学入試課まで提出してください。

- 在留期間更新・在留資格変更許可申請書（所属機関等作成用）
- 在留資格認定証明書交付申請書（所属機関等作成用）

(7) その他

ア 提出書類その他、入学手続の詳細については、合格者に通知します。

イ 入学手続を完了した方で、他の大学・学部の入学許可を得ようとする方は、必ず事前に入学辞退の手続をしてください。

ウ 入学手続時に【麻しん（はしか）に関する確認書】を提出してください。ただし、麻しんワクチンの接種は、入学手続書類が届いてからでは間に合わないこともあるので、できる限り事前に済ませておいてください。詳細は32ページの「麻しん（はしか）の予防について（お知らせ）」を参照してください。

14 その他

(1) 学位

区分	学位名称	英語表記
初等教育教員養成課程, 学校教育教員養成課程, 養護教諭養成課程, 教育協働学科	学士（教育学）	Bachelor of Education

(2) 修学場所

柏原キャンパス

初等教育教員養成課程（1，2年次）

学校教育教員養成課程

養護教諭養成課程

教育協働学科

天王寺キャンパス

初等教育教員養成課程（3，4年次）

(3) 個人情報について

出願書類から取得した個人情報及び入学試験の実施により取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人大阪教育大学保有個人情報開示等取扱規程」に基づき、適切に管理し、以下の目的に利用します。

1. 入学者の選抜，合格発表，入学手続業務等に利用します。
2. 入学者の個人情報については，教務関係（学籍，修学指導等），学生支援関係（健康管理，就職支援，授業料免除，奨学金申請，図書館利用等），学生アカウント関係（学内メール，パソコン利用）及び授業料徴収に関する業務に利用します。
3. 入学者選抜に用いた試験成績は，今後の入学者選抜に資するための分析資料として利用します。

なお，以上の業務の一部またはすべてを外部に委託し，必要な個人情報を提供する場合は，委託先との間で適切な取扱に関する契約を締結します。

別表1

入学者選抜方法・配点・検査時間

課程・専攻・コース		選抜方法等		日本留学試験		TOEFLまたはIELTS		本学が行う試験科目・配点		合計	検査時間
		科目区分	配点	注1	配点	試験科目	配点				
初等教育 教員養成課程	幼児教育専攻	文系	850			小論文 面接	200 200	1250	10:00～11:30 注3		
	小学校教育専攻昼間コース			文系又は理系			小論文 面接	200 200	1250	10:00～11:30 注3	
学校教育 教員養成課程	特別支援教育専攻	文系	850			小論文 面接	200 100	1150	10:00～12:00 13:00～		
	小中教育専攻	学校教育コース		文系又は理系			小論文 面接	200 200	1250	10:00～12:00 注3	
		国語教育コース		文系			小論文 面接	300 100	1250	10:00～12:00 注3	
		英語教育コース		文系又は理系	○	120	面接	200	1170	10:00～	
		社会科教育コース		文系			小論文 面接	200 100	1150	10:00～12:00 13:00～	
		数学教育コース		理系			数学注2 面接	800 100	1750	10:00～12:00 13:30～	
		理科教育コース					小論文 面接	300 200	1350	10:00～12:00 13:30～	
		家政教育コース		文系又は理系			小論文 面接	150 150	1150	10:00～12:00 13:30～	
		保健体育コース					実技 面接	450 300	1600	10:00～ 注3	
		音楽教育コース					実技 面接	400 200	1450	10:00～12:00 注3	
		美術・書道教育コース					実技 面接	400 250	1500	10:00～12:00 注3	
	中等教育専攻	国語教育コース		文系			小論文 面接	300 100	1250	10:00～12:00 注3	
		英語教育コース		文系又は理系	○	120	面接	200	1170	10:00～	
		社会科教育コース		文系			小論文 面接	200 100	1150	10:00～12:00 13:00～	
		数学教育コース		理系			数学注2 面接	800 100	1750	10:00～12:00 13:30～	
		理科教育コース					小論文 面接	300 200	1350	10:00～12:00 13:30～	
		技術教育コース		文系又は理系			小論文 面接	200 200	1250	10:00～11:30 13:30～	
		家政教育コース					小論文 面接	150 150	1150	10:00～12:00 13:30～	
		保健体育コース					実技 面接	450 300	1600	10:00～ 注3	
		音楽教育コース					実技 面接	400 250	1500	10:00～12:00 注3	
美術・書道教育コース					実技 面接	400 250	1500	10:00～12:00 注3			

※ 日本留学試験の受験科目の詳細については、別表2(18ページ参照)にて確認してください。文系・理系の別によって受験科目が異なるので注意してください。特に数学のコース選択に注意してください。

※ 「面接」には、口述試験を含みます。

注1) ○印のある課程・専攻は、TOEFL(iBT)またはIELTSの受験が別途必要です。TOEFL(iBT)は素点を、IELTSはoverall scoreを別表3によりTOEFL(iBT)のスコアに換算したものを利用します。

注2) 数学の出題範囲は、次のとおりです。

・「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。

・「数学B」は「数列」、「ベクトル」の2分野を出題範囲とします。

注3) 面接の時間及び場所については、当日指示します。

課程・専攻・コース		選抜方法等	日本留学試験		TOEFLまたはIELTS		本学が行う試験科目・配点		合計	検査時間						
			科目区分	配点	注1	配点	試験科目	配点								
養護教諭養成課程			理系					小論文 面接	200 100	1150	10:00～12:00 13:00～					
教育協働学科	教育心理学専攻		文系 又は 理系	850				小論文	200	1250	10:00～12:00 13:30～					
	健康安全科学専攻							面接	200							
	理数情報 専攻	数理情報コース						理系	数学 注2	300	1450	10:00～12:00 13:00～				
		自然科学コース							面接	300						
	グローバル 教育専攻	英語コミュニケーションコース						文系	小論文	200	1250	10:00～12:00 14:00～				
		多文化リテラシーコース							面接	200						
	芸術表現 専攻	音楽表現コース						文系 又は 理系	小論文	300	1450	10:00～12:00 13:30～				
		美術表現コース							面接	300						
	スポーツ科学専攻												実技	400	1450	10:00～ 注3
													面接	200		
								実技	400	1350	10:00～12:00 12:15～					
								面接	100							
								実技	500	1550	10:00～ 注3					
								面接	200							

※ 日本留学試験の受験科目の詳細については、別表2(18ページ参照)にて確認してください。文系・理系の別によって受験科目が異なるので注意してください。特に数学のコース選択に注意してください。

※ 「面接」には、口述試験を含みます。

注1) ○印のある課程・専攻は、TOEFL(iBT)またはIELTSの受験が別途必要です。TOEFL(iBT)は素点を、IELTSはoverall scoreを別表3によりTOEFL(iBT)のスコアに換算したものを利用します。

注2) 数学の出題範囲は、次のとおりです。

- ・「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」は全範囲から出題します。
- ・「数学B」は「数列」、「ベクトル」の2分野を出題範囲とします。

注3) 面接の時間及び場所については、当日指示します。

別表 2

日本留学試験の受験科目等一覧

科目区分	科目	目的	時間	得点範囲
理系	日本語	日本の大学等での勉学に対応できる日本語力（アカデミック・ジャパニーズ）を測定する。	125分	0～450点
	理科	日本の大学等の理系学部での勉学に必要な理科（物理・化学・生物）の基礎的な学力を測定する。	80分	0～200点
	数学 （コース2）	日本の大学等での勉学に必要な数学の基礎的な学力を測定する。	80分	0～200点
文系	日本語	日本の大学等での勉学に対応できる日本語力（アカデミック・ジャパニーズ）を測定する。	125分	0～450点
	総合科目	日本の大学等での勉学に必要な文系の基礎的な学力，特に思考力，論理的能力を測定する。	80分	0～200点
	数学 （コース1）	日本の大学等での勉学に必要な数学の基礎的な学力を測定する。	80分	0～200点

- 備考 1. 出題言語は，日本語とします。
2. 「日本語」の成績は，「読解」・「聴解・聴読解」・「記述」の3領域とします。
3. 「理科」の成績は，「物理」・「化学」・「生物」から2科目とします。
4. 出題範囲は，各科目のシラバス〔独立行政法人日本学生支援機構 <http://www.jasso.go.jp/>に掲載〕を参照してください。

別表 3

IELTS-TOEFL点数換算表

IELTS	TOEFL
9	120
8.5	120
8	120
7.5	110
7	100
6.5	90
6	80
5.5	73
5	65
4.5	60
4	55
3.5	50
3	45
2.5	40
2	35
1.5	30
1	25

小論文の実施内容

	専攻等区分	実施内容	採点・評価基準
初等教育 教員養成課程	幼児教育専攻	提示された課題に関する論述をとおして、論理構成力・表現力をみるために、小論文形式で筆答させる。	論理構成力・表現力を総合的に評価する。そのための評価観点は、課題に即して設定する。
	小学校教育専攻 昼間コース	提示された課題に関する論述をとおして、論理構成力・表現力をみるために、小論文形式で筆答させる。	論理構成力・表現力を総合的に評価する。そのための評価観点は、課題に即して設定する。
学校教育 教員養成課程	特別支援教育専攻	文章表現をとおして、思考力・表現力をみるために、小論文形式で筆答させる。	思考力・表現力を総合的に評価するが、課題の理解力や論理の構成力、漢字の表記能力についても採点・評価の対象とする。
	小中教育専攻 学校教育コース	文章表現をとおして、思考力・洞察力・表現力をみるために、小論文形式で筆答させる。	思考力・洞察力・表現力を総合的に評価するが、課題の理解度や分析力、論理の構成力についても採点・評価の対象とする。
	小中教育専攻 国語教育コース	国語（現代文・古文・漢文・国語表現）に関する理解力・表現力をみるために、小論文形式で筆答させる。	目的・状況に応じて活用できる言語能力を測るため、国語（現代文・古文・漢文・国語表現）に関して、理解力、分析的思考力、判断力、コミュニケーション力、文章構成力、表現力を、総合的に評価する。
	小中教育専攻 社会科教育コース	社会的事象に関する課題を与え、総合的な学力をみるために、小論文形式で筆答させる。	基礎的な理解力・思考力・表現力を総合的に評価するが、課題把握の的確さや論理の構成力及び論述の独自性も採点・評価の対象とする。
	小中教育専攻 理科教育コース	自然科学に関わる事象を基に理解力並びに科学的思考力を問い、総合的な学力をみるために、小論文形式で筆答させる。	自然に関わる事物や事象に関し、科学的理解力・思考力・判断力及び表現力を総合的に評価する。
	小中教育専攻 家政教育コース	家庭生活に関わる事象について、総合的な学力をみるために、小論文形式で筆答させる。	理解力・思考力・表現力を総合的に評価するが、課題把握の的確さや論理の構成力・分析力についても採点・評価の対象とする。
	中等教育専攻 国語教育コース	国語（現代文・古文・漢文・国語表現）に関する理解力・表現力をみるために、小論文形式で筆答させる。	目的・状況に応じて活用できる言語能力を測るため、国語（現代文・古文・漢文・国語表現）に関して、理解力、分析的思考力、判断力、コミュニケーション力、文章構成力、表現力を、総合的に評価する。

専攻等区分		実施内容	採点・評価基準
学校教育教員養成課程	中等教育専攻 社会科教育コース	社会的事象に関する課題を与え、総合的な学力をみるために、小論文形式で筆答させる。	基礎的な理解力・思考力・表現力を総合的に評価するが、課題把握の的確さや論理の構成力及び論述の独自性も採点・評価の対象とする。
	中等教育専攻 理科教育コース	自然科学に関わる事象を基に理解力並びに科学的思考力を問い、総合的な学力をみるために、小論文形式で筆答させる。	自然に関わる事物や事象に関し、科学的理解力・思考力・判断力及び表現力を総合的に評価する。
	中等教育専攻 技術教育コース	技術に関わる事象について、総合的な学力をみるために、小論文形式で筆答させる。	理解力・思考力・表現力を総合的に評価するが、課題の理解度や論理の構成力・分析力についても採点・評価の対象とする。
	中等教育専攻 家政教育コース	家庭生活に関わる事象について、総合的な学力をみるために、小論文形式で筆答させる。	理解力・思考力・表現力を総合的に評価するが、課題把握の的確さや論理の構成力・分析力についても採点・評価の対象とする。
養護教諭養成課程		健康科学に関する理解と関心度をみるために、小論文形式で筆答させる。	出題した問題に対する読解力、考察力を総合的に評価するが、文章の表現力、的確性、論理構成力についても採点・評価の対象とする。
教育協働学科	教育心理学専攻	人間生活に関する資料や論文を読み解き、その要点や問題点を論理的な思考をとおして把握し、それを表現する能力をみるため、小論文形式で筆答させる。	人間生活に関する基礎的な知識や理解をみるために、設問に応じた読解力、思考力、論理的な文章表現力を総合的に評価する。
	健康安全科学専攻	健康生活と安全に関する認識と関心事について、小論文形式で筆答させる。	思考力・表現力を総合的に評価するが、課題の理解度や構成力、誤りのない日本語で表現できているかについても採点・評価の対象とする。
	理数情報専攻 自然科学コース	自然科学に関わる事象を基に理解力並びに科学的思考力を問い、総合的な学力をみるために、小論文形式で筆答させる。	小論文をとおして自然科学に関する知識、理解力及び自然に対する探求心を総合的に評価する。
	グローバル教育専攻 英語コミュニケーションコース 多文化リテラシーコース	英語圏、及び日本やアジア、ヨーロッパの言語文化、社会・芸術文化、教育文化に関する知識や理解力、表現力をみるために、小論文形式で筆答させる。なお、英語コミュニケーションコースでは英語力もみる。	英語圏、及び日本やアジア、ヨーロッパの言語文化、社会・芸術文化、教育文化に関する知識や理解力に加え、課題分析力、論理的思考力、文章力を総合的に評価する。なお、英語コミュニケーションコースでは英語力も評価する。

面接(口述試験を含む。)

専攻等区分		実施内容	採点・評価基準
初等教育教員養成課程	幼児教育専攻	幼児教育に関する理解・関心度・意欲について発問する。表現力や協調性をみる内容を含む場合がある。	面接をとおして、幼児教育に関する理解、関心度、意欲を総合的に評価する。表現力や協調性についても評価する場合がある。
	小学校教育専攻 昼間コース	初等教育に関する理解・関心度・意欲について発問する。表現力や協調性をみる内容を含む場合がある。	面接をとおして、論理性・表現力・応用能力をみるとともに、学校教育・教職への熱意・適性について総合的に評価する。
学校教育教員養成課程	特別支援教育専攻	特別支援教育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	質問に対する理解力、思考力、表現の的確さ、論理性について評価するが、特別支援教育に関する理解力や関心度も総合的に採点・評価の対象とする。
	小中教育専攻 学校教育コース	学校教育に関する理解と認識をみるために面接形式で行う。	面接をとおして、学校教育に関する関心や理解の度合い、認識や洞察の深さなどについて総合的に評価する。
	小中教育専攻 国語教育コース	わが国の義務教育における国語科を指導するに十分な国語(現代文・古文・漢文・国語表現)に関する理解力・表現力をみるために面接形式で行う。	面接をとおして、わが国の義務教育における国語科を指導するに十分な国語への理解度や認識、探究心、表現力などを総合的に評価する。
	小中教育専攻 英語教育コース	英語教育の諸問題について質疑応答を行う。	英語・日本語運用能力、論理的思考能力及び教育に関する理解や認識を総合的に評価する。
	小中教育専攻 社会科教育コース	社会的事象に関する理解力・思考力・表現力をみるために面接形式で行う。	面接をとおして、社会的事象に関する理解力・思考力・表現力を総合的に評価する。
	小中教育専攻 数学教育コース	数学教育を志望する動機を尋ねる。義務教育諸学校(小学校・中学校)における教育についての知識と技能及び高度な数学・数学教育を学ぶための基礎学力・理解力があるか、抽象的思考・論理的思考を大切に納得がいくまで考える資質を持っているか、自由で柔軟な発想が出来るか、等を確認するための質問を行う。	実施内容の事柄に対する回答をもとに、義務教育諸学校(小学校・中学校)における教育についての知識と技能及び数学・数学教育を学ぶ意欲と数学教育専攻のカリキュラム内容に対応できる能力があるかを総合的に評価する。
	小中教育専攻 理科教育コース	理科及び理科教育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	面接をとおして、理科及び理科教育への理解度や認識を確認し、応答における考えの的確さ・論理性・コミュニケーション力などと併せて総合的に評価する。

専攻等区分	実施内容	採点・評価基準
小中教育専攻 家政教育コース	家庭科に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	質問に対する考え方の的確さ、表現の簡潔さ、論理性等について総合的に評価するが、家庭科に関する理解力や関心度も採点・評価の対象とする。
小中教育専攻 保健体育コース	保健体育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	保健体育に関連する内容についての知識・理解力・関心等を総合的に評価する。
小中教育専攻 音楽教育コース	音楽教育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	質問に対する理解力、思考力をみるとともに、応答における考えの的確さ、論理性をふまえ、総合的に評価する。
小中教育専攻 美術・書道教育コース	<p><美術実技の選択者> 美術・美術教育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。</p> <p><書道実技の選択者> 書道教育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。</p>	<p><美術実技の選択者> 美術・美術教育に対する意欲、適性をみるとともに、日本語によるコミュニケーション能力などを総合的に評価する。</p> <p><書道実技の選択者> 志望動機、就学目的及び意欲、日本語によるコミュニケーション力、専門に関わる知識等を総合的に評価する。</p>
中等教育専攻 国語教育コース	わが国の中等教育における国語科を指導するに十分な国語（現代文・古文・漢文・国語表現）に関する理解力・表現力をみるために面接形式で行う。	面接をとおして、わが国の中等教育における国語科を指導するに十分な国語への理解度や認識、探究心、表現力などを総合的に評価する。
中等教育専攻 英語教育コース	英語教育の諸問題について質疑応答を行う。	英語・日本語運用能力、論理的思考能力及び教育に関する理解や認識を総合的に評価する。
中等教育専攻 社会科教育コース	社会的事象に関する理解力・思考力・表現力をみるために面接形式で行う。	面接をとおして、社会的事象に関する理解力・思考力・表現力を総合的に評価する。
中等教育専攻 数学教育コース	数学教育を志望する動機を尋ねる。中学校と高等学校の教科「数学」についての知識と技能及び高度な数学・数学教育を学ぶための基礎学力・理解力があるか、抽象的思考・論理的思考を大切にして納得がいくまで考える資質を持っているか、自由で柔軟な発想が出来るか、等を確認するための質問を行う。	実施内容の事柄に対する回答をもとに、中学校と高等学校の教科「数学」についての知識と技能及び数学・数学教育を学ぶ意欲と数学教育専攻のカリキュラム内容に対応できる能力があるかを総合的に評価する。
中等教育専攻 理科教育コース	理科及び理科教育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	面接をとおして、理科及び理科教育への理解度や認識を確認し、応答における考えの的確さ・論理性・コミュニケーション力などと併せて総合的に評価する。

学校教育教員養成課程

専攻等区分		実施内容	採点・評価基準
学校教育教員養成課程	中等教育専攻 技術教育コース	技術教育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	質問に対する理解力、思考力をみるとともに応答における考えの的確さ、論理性について総合的に評価するが、技術教育に関する理解度や関心度についても採点・評価の対象とする。
	中等教育専攻 家政教育コース	家庭科に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	質問に対する考え方の的確さ、表現の簡潔さ、論理性等について総合的に評価するが、家庭科に関する理解力や関心度も採点・評価の対象とする。
	中等教育専攻 保健体育コース	保健体育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	保健体育に関連する内容についての知識・理解力・関心等を総合的に評価する。
	中等教育専攻 音楽教育コース	音楽教育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	質問に対する理解力、思考力をみるとともに、応答における考えの的確さ、論理性をふまえ、総合的に評価する。
	中等教育専攻 美術・書道教育コース	<p><美術実技の選択者> 美術・美術教育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。</p> <p><書道実技の選択者> 書道教育に関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。</p>	<p><美術実技の選択者> 美術・美術教育に対する意欲、適性をみるとともに、日本語によるコミュニケーション能力などを総合的に評価する。</p> <p><書道実技の選択者> 志望動機、就学目的及び意欲、日本語によるコミュニケーション力、専門に関わる知識等を総合的に評価する。</p>
養護教諭養成課程		健康問題に関する理解と応用的能力をみるために面接形式で行う。	質問に対する理解力、思考力をみるとともに応答における考えの的確さ、表現の簡潔さ、論理性、应用能力についても採点・評価の対象とする。
教育協働学科	教育心理学専攻	受験生に志望の動機、理由、入学後の目標、勉学への意欲などを説明させ、それに応じて面接者が人間生活や教育に関して質問し、回答させる。	志望の動機、理由、入学後の目標、勉学への意欲などを明確に説明し、面接者の質問を聞き取り、的確に答える思考力や表現力を総合的に評価する。
	健康安全科学専攻	健康生活と安全に関する知識と本専攻で学ぶ意欲をみるために面接形式で行う。	健康生活と安全への理解の程度と日本語によるコミュニケーション能力について総合的に評価する。
	理数情報専攻 数理情報コース	数理情報科学を学ぶための基礎学力・理解力・数学的素養および語学的素養について、質疑応答の形で面接を行う。	基礎学力・理解力・数学的素養・語学的素養という4つの観点から評価を行う。数理情報科学のカリキュラムに対応できる能力があるかを総合的に評価する。
	理数情報専攻 自然科学コース	自然科学に関連する教科に関する理解と認識をみるために面接形式で行う。	面接をとおして自然科学に関する知識、理解力及び自然に対する探求心を総合的に評価する。

専攻等区分	実施内容	採点・評価基準
グローバル教育専攻 英語コミュニケーションコース 多文化リテラシーコース	英語圏，及び日本やアジア，ヨーロッパの言語文化，社会・芸術文化，教育文化に関する問題意識，知識や理解力に加え，自らの意見を的確に表現するコミュニケーション能力をみる。英語コミュニケーションコースでは英語運用能力，多文化リテラシーコースでは日本語運用能力をそれぞれ重視する。	英語圏，及び日本やアジア，ヨーロッパの言語文化，社会・芸術文化，教育文化に対する問題意識，知識や理解力，コミュニケーション能力を総合的に評価する。英語コミュニケーションコースでは英語運用能力，多文化リテラシーコースでは日本語運用能力をそれぞれ重視する。
芸術表現専攻 音楽表現コース	芸術，特に音楽と社会との関わりについての理解と関心度をみるために面接形式で行う。	質問内容に関する知識，理解力，表現力及び意欲を総合的に評価する。
芸術表現専攻 美術表現コース	美術表現に関する基本的な理解と関心度をみるために面接形式で行う。	面接をとおして，美術表現に関する理解度や認識を確認する。また理解力・構想力・判断力・実践力などの基礎力と関心度及び学習・研究意欲を総合的に評価する。
スポーツ科学専攻	スポーツに関する理解と関心度をみるために面接形式で行う。	スポーツへの興味・関心・知識・意欲等を総合的に評価する。

教育協働学科

実技検査の実施内容及び留意事項

専攻等区分	実施内容及び留意事項
学校教育教員養成課程 小中教育専攻 保健体育コース 中等教育専攻 保健体育コース	<p>次の検査を実施する。</p> <p>専門的検査：種目別運動技能に関するテスト</p> <p>下記の中から1種目を出願時に選択すること。出願後の変更は認めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・バスケットボール ・サッカー ・ラグビーフットボール ・バレーボール ・ハンドボール ・卓球 ・硬式テニス ・ソフトテニス ・硬式野球 ・バドミントン ・体操競技 ・創作ダンス ・柔道 ・剣道 ・水泳競技（競泳）
学校教育教員養成課程 小中教育専攻 音楽教育コース 中等教育専攻 音楽教育コース	<p>次のⅠ～Ⅲの検査を実施する。</p> <p>Ⅰ. 歌 曲</p> <p>下記の2曲から任意の1曲を歌う。</p> <p>1) 浜辺の歌 成田為三 (As, F-Dur)</p> <p>2) Caro mio ben G. Giordani (F, Es, D, C-Dur)</p> <p>(注) 1. 歌詞は、原語により暗譜で歌うこと。</p> <p>2. 上記以外の調で歌う場合は、移調した伴奏用楽譜（正確、明瞭に記譜し、歌唱旋律及び歌詞を記入したもの）に志願者氏名を明記し、願書とともに提出すること。（ただし、浜辺の歌については2番までとする。）</p> <p>3. 伴奏者は本学で配置する。</p> <p>Ⅱ. ピアノ</p> <p>次の1), 2)からそれぞれ1曲ずつ、計2曲を演奏する。</p> <p>1) 古典派のソナタから任意の一つの楽章（但し緩徐楽章は除く）</p> <p>2) ロマン派又は近現代の曲（ただし出版されている作品であること。邦人作品を含む。）</p> <p>(注) 1. 演奏は暗譜で、原則として繰り返しは省略すること。なお、演奏の途中で中止させる場合がある。</p> <p>2. 選んだ2曲の作曲者名と曲名及び志願者氏名を別紙に明記し、願書とともに提出すること。</p>

専攻等区分	実施内容及び留意事項
学校教育教員養成課程 小中教育専攻 音楽教育コース 中等教育専攻 音楽教育コース	<p>Ⅲ. 作品解釈 (解答時間60分)</p> <p>演奏した曲(歌曲, ピアノいずれでも可)に関する知識及び各自の演奏解釈を記述する。</p>
学校教育教員養成課程 小中教育専攻 美術・書道教育コース 中等教育専攻 美術・書道教育コース	<p>次のⅠ, Ⅱのいずれかを選択すること。</p> <p>Ⅰ. 美術実技 次の検査を実施する。 鉛筆による静物デッサン (注)鉛筆, 消しゴムは, 各自持参すること。(カルトン, 画用紙は本学で準備する。)</p> <p>Ⅱ. 書道実技 次の1), 2)の検査を実施する。 1) 臨書(楷書・行書・仮名) (注)硯・墨・筆(大・小)・水差し・無地の下敷き及び文鎮を各自持参すること。 (用紙は本学で準備する。) 2) 書道に関するテスト(筆記テスト)</p>

志望専門別検査科目表

検査科目	志望専門		器 楽		
	作曲	声 楽	ピアノ	弦楽器	管・打楽器
作曲	A				
声 楽		B			
ピ ア ノ			C		
弦 楽 器				D	
管・打楽器					E

【専 門】 志望専門別に受験すること。

A 作 曲

ア 与えられたバス及びソプラノに和声を付け四声体にする。(制作時間2時間)

イ 与えられたテーマ又はモチーフに基づいて、ピアノ曲を作る。

(制作時間2時間)

(注)ア、イともに試験中の楽器の使用は認めない。

B 声 楽

課題曲 2曲

次の10曲から任意の2曲を選び、暗譜で歌う。

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1) Star vicino | S. Rosa |
| 2) Sento nel core | A. Scarlatti |
| 3) Son tutta duolo | A. Scarlatti |
| 4) Caro laccio | F. Gasparini |
| 5) Lasciar d'amarti | F. Gasparini |
| 6) Sebben, crudele | A. Caldara |
| 7) Se tu m'ami | G. B. Pergolesi |
| 8) An die Musik | F. P. Schubert |
| 9) Die Lotosblume | R. A. Schumann |
| 10) Wiegenlied | J. Brahms |

(注) 1 歌詞は原語とする。

2 曲の途中で演奏を中止させる場合がある。

3 伴奏用楽譜(歌唱旋律及び歌詞が記入されたもの)を提出すること。ただし、1ページの大きさはB5判(縦257mm×横182mm)とし、志願者氏名を明記の上、願書と共に提出すること。提出後の作品及び調性等の変更は認めない。

4 伴奏者は本学で配置する。

C ピアノ

ア、イの順に暗譜で演奏する。使用する楽譜の版は指定をしない。繰り返しは省略すること。

ア 次の3曲より任意の1曲

J.S. Bach : Das Wohltemperierte Klavier

Teil I Nr. 6 d-moll Praeludium と Fuga

Teil I Nr. 13 Fis-dur Praeludium と Fuga

Teil II Nr. 15 G-dur Praeludium と Fuga



イ 次の3曲より任意の1曲

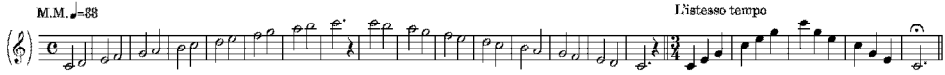
L.v. Beethoven : Sonate 第11番 B-dur Op. 22 第1楽章

第26番 Es-dur Op. 81a 第1楽章

第27番 e-moll Op. 90 第1楽章

教育協働学科
芸術表現専攻
音楽表現コース

専攻等区分	実施内容及び留意事項
教育協働学科 芸術表現専攻 音楽表現コース	<p>D 弦楽器</p> <p>楽器別により、それぞれ指定（ア、イ）されたものを暗譜で演奏する。ただし、無伴奏とする。また、楽譜について指定のあるものは、その版を用いること。</p> <p><u>自由曲については、作曲者名と曲名及び志願者氏名を別紙に明記し、願書とともに提出すること。</u></p> <p>a ヴァイオリン</p> <p>ア Carl Flesch : Scale System より C-dur No. 5の冒頭の12小節（テンポは♩ =100～120） No. 6, 7, 8の冒頭の4小節 （テンポは♩ =40～50）</p> <p>イ 自由曲 1曲</p> <p>b ヴィオラ</p> <p>ア Carl Flesch : Scale System より C-dur No. 5の冒頭の12小節（テンポは♩ =100～120） （注）ヴィオラ用に編曲された楽譜を使用すること。</p> <p>イ 自由曲 1曲</p> <p>c チェロ</p> <p>ア J. Loeb : Gammes et arpégés pour violoncelle (Billaudot版)により、 3オクターブの音階と分散和音（C, D, Es, E-dur の中から当日指定） 音階は、テンポ♩ =60以上 スラーは  の形で演奏する。 分散和音は、テンポ、フィンガリングともに自由 スラーは  の形で演奏する。</p> <p>イ 自由曲 1曲</p> <p>d コントラバス</p> <p>ア シャープ又はフラットが3個までの調号をもつ長調又は短調のうちから、 2オクターブの音階（調は当日指定。短調は和声的短音階と旋律的短音階の 両方を演奏する。テンポ、フィンガリング、スラーは自由）</p> <p>イ 自由曲 1曲 （注）楽器貸出し可能</p> <p>E 管・打楽器</p> <p>楽器別により、それぞれ指定（ア、イ）されたものを演奏する。ただし、無伴奏とし、楽譜は見てもよい。</p> <p><u>自由曲については、作曲者名と曲名及び志願者氏名を別紙に明記し、願書とともに提出すること。</u></p> <p>a フルート</p> <p>ア 長調の音階、半音階及び主和音の分散和音（調及びアーティキュレーションは当日指定）</p> <p>イ 自由曲 1曲</p> <p>b オーボエ</p> <p>ア フルートのアに同じ。</p> <p>イ 自由曲 1曲</p> <p>c クラリネット</p> <p>ア フルートのアに同じ。</p> <p>イ 自由曲 1曲</p> <p>d ファゴット</p> <p>ア フルートのアに同じ。</p> <p>イ 自由曲 1曲</p>

専攻等区分	実施内容及び留意事項
教育協働学科 芸術表現専攻 音楽表現コース	<p>e トランペット ア 次の譜例により、長調の音階2オクターブ及び分散和音(調は当日指定)</p>  <p>イ 自由曲 1曲</p> <p>f ホルン ア トランペットのアに同じ。 イ 自由曲 1曲</p> <p>g トロンボーン ア トランペットのアに同じ。 イ 自由曲 1曲</p> <p>h バス・トロンボーン ア トランペットのアに同じ。 イ 自由曲 1曲</p> <p>i テューバ ア トランペットのアに同じ。 イ 自由曲 1曲</p> <p>j 打楽器 ア 小太鼓の基本奏法 1つ打ち, 2つ打ち, 5つ打ち (緩→急→緩 等, 当日指定), ロール (<, >, < > 等, 当日指定) イ 小太鼓, マリンバのいずれかを用いた自由曲 1曲 (注) マリンバ (5オクターブ半), 小太鼓, スタンド, バチ置きは貸出し可能</p>
教育協働学科 芸術表現専攻 美術表現コース	<p>次の検査を実施する。</p> <p>内容/ 鉛筆による素描</p> <p>留意事項/ 鉛筆デッサン用具一式(鉛筆・消しゴム等)を持参すること。 モチーフ・画用紙・紙・カルトン等は本学で準備する。</p>
教育協働学科 スポーツ科学専攻	<p>次の検査を実施する。</p> <p>専門的検査：種目別運動技能に関するテスト</p> <p>下記の中から1種目を出願時に選択すること。出願後の変更は認めない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・バスケットボール ・サッカー ・ラグビーフットボール ・バレーボール ・ハンドボール ・卓球 ・硬式テニス ・ソフトテニス ・硬式野球 ・バドミントン ・体操競技 ・創作ダンス ・柔道 ・剣道 ・水泳競技(競泳)

別表6-2

実技検査の採点・評価基準

	専攻等区分	実施内容	採点・評価基準
学校教育 教員養成課程	小中教育専攻 保健体育コース 中等教育専攻 保健体育コース	専門的検査：種目別運動技能に関する テスト	種目固有の運動技能について、 保健体育専攻生としてふさわしい 実技力であるかどうかを採点・評 価する。
	小中教育専攻 音楽教育コース 中等教育専攻 音楽教育コース	I. 歌曲 II. ピアノ III. 作品解釈	教員養成（音楽）に必要な基礎 的技術，表現力等について検査す る。 併せて，実技に必要な基礎的知 識や，演奏に対する考え方につい ても審査し，総合的に評価する。
	小中教育専攻 美術・書道コース 中等教育専攻 美術・書道コース	次の I，II のいずれかを選択するこ と。 I. 美術実技 鉛筆による静物デッサン II. 書道実技 1) 臨書 2) 書道に関するテスト	<美術実技選択者> 基礎的な造形感覚（構成・対象 把握）や表現能力を評価の対象と する。 <書道実技選択者> 用筆・構成などにかかわる表現 力・鑑賞力・思考力を総合的に評 価の対象とする。
教育協働学 科	芸術表現専攻 音楽表現コース	【専門】 A 作曲 B 声楽 C ピアノ D 弦楽器 E 管・打楽器	志望専門毎に設定された検査 項目により，音楽性・演奏技術・ 創作能力等について審査し，評価 する。
	芸術表現専攻 美術表現コース	鉛筆による素描	課題に基づいてモチーフを構 成し，観察し，描写する力を評価 する。
	スポーツ科学専攻	専門的検査：種目別運動技能に関す るテスト	種目固有の運動技能を，体力・ 技術・戦術等の視点から総合的に 採点・評価する。

私費外国人留学生入学志願票等記入要領

入学志願票、受験票・写真票、入学検定料振込金証明書貼付用紙、入学検定料振込依頼書は、次の要領で記入してください。

A 共通事項

- 1 黒のボールペン（水性可）で記入してください。
- 2 漢字は楷書、数字は算用数字で記入してください。
- 3 ※印の欄には記入しないでください。

B 入学志願票

- 1 該当する欄は、すべて記入してください。
- 2 該当事項は、○で囲んでください。
- 3 アルファベット欄には、パスポート記載のアルファベットを記入してください。
- 4 在留資格欄には、入学志願者の有する在留資格を記入してください。
- 5 出願資格欄の出身高校欄は日本の高等学校に対応する学校を記入してください（10ページの出願資格（2）ア）。出願資格欄の資格試験欄について、大学入学に必要な国際バカロレア資格、バカロレア資格、アビトゥア資格等を取得している方は、その名称及び取得年月日を記入してください（10ページの出願資格（2）イ）。日本留学試験・日本語能力試験は記入不要です。
- 6 小中教育専攻保健体育コース、中等教育専攻保健体育コース及び教育協働学科スポーツ科学専攻の志望者は、受験する専門的検査の種目等を1つ選び、数字を○で囲んでください。併せて身長・体重を記入してください（実技検査の準備に必要となる場合があるため）。
- 7 教育協働学科芸術表現専攻音楽表現コース志望者は、志望する専門を1つ選び、数字を○で囲んでください。
- 8 小中教育専攻美術・書道教育コース及び中等教育専攻美術・書道教育コース志望者は、受験する実技検査を1つ選び、数字を○で囲んでください。
- 9 学歴欄には、すべての教育機関について学校名、所在地、在学年数、修業年限、入学年月日及び修了（卒業）年月日（見込み含む）を年月順に記入してください。日本語学校は日本語学習歴欄に記入してください。
- 10 日本語学習歴欄は、すべての学習機関について学習機関名、所在地、学習期間を年月順に記入してください。
- 11 連絡先欄は、日本国内の連絡先を記入してください。
- 12 合格通知書受信場所は、連絡先と異なる場合のみ日本国内の受信場所を記入してください。

C 受験票・写真票

- 1 受験票と写真票には同一の写真（正面、上半身、脱帽の縦4cm×横3cmの寸法で3か月以内に撮影したもの。写真の裏面に氏名を記入。）を貼り付けてください。写真の上から、同封している本学所定の写真用シールを貼り付けてください。
 - 2 「志望課程・学科・専攻・コース」欄には教員養成課程の場合は課程・専攻・コースを、教育協働学科の場合は学科・専攻・コースを記入してください。
- （注）受験票裏面の受験上の注意事項をよく読んでください。

D 入学検定料振込金証明書貼付用紙

11ページの（2）をよく読み、銀行の受付印が押された入学検定料振込金証明書（大学提出用）を貼り付けて提出してください。なお、入学検定料を外国送金で納付する方は、外国送金依頼書のコピーを提出してください。

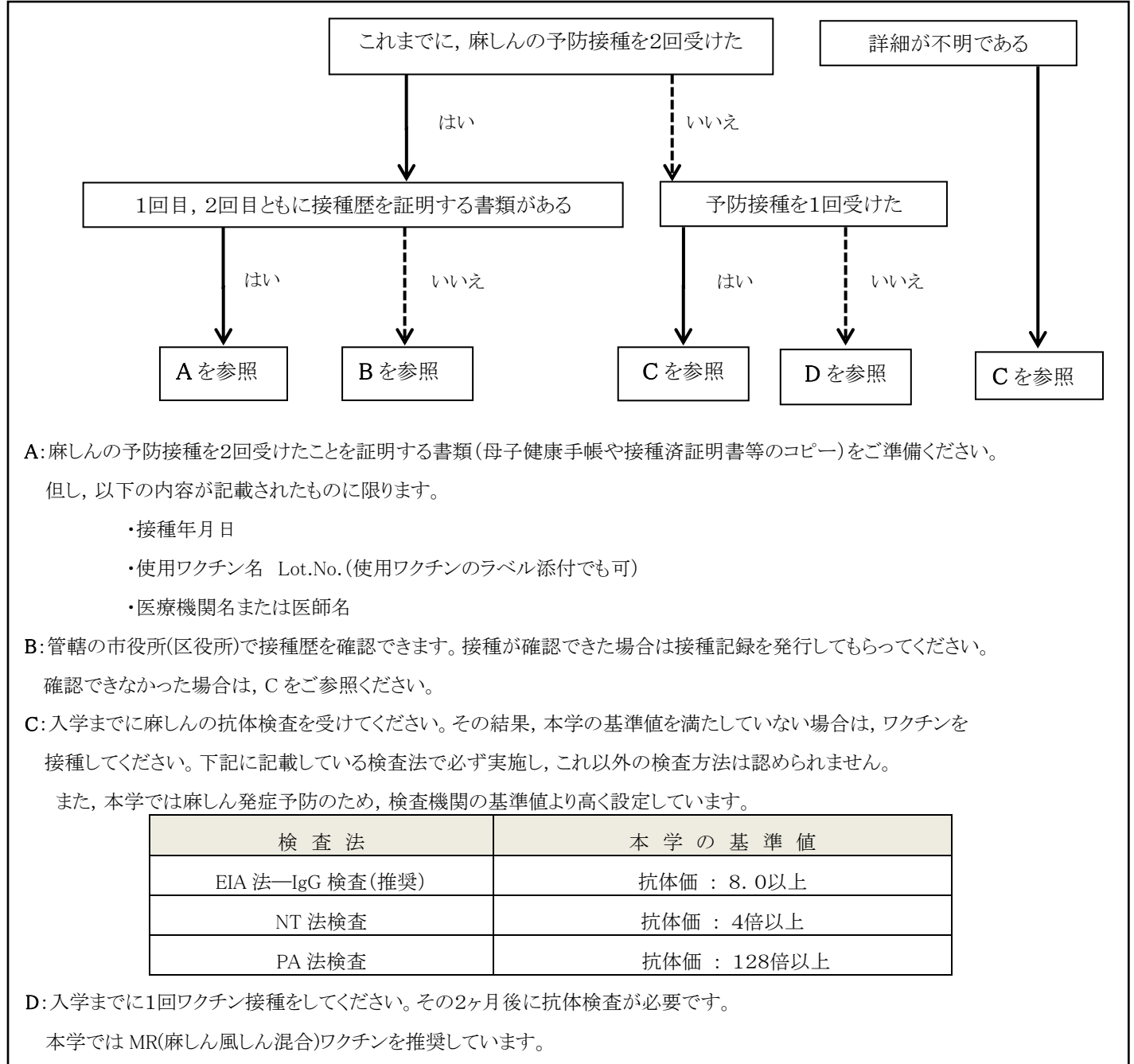
E その他

出願に当たっては、11ページの（1）をよく読み、出願書類等がそろっていることを確認してください。特に、自由曲や課題曲の選択が必要な方（25～26ページ又は27～29ページ参照）は入念に確認してください。

麻疹(はしか)の予防について《お知らせ》

厚生労働省は、2007年に高校・大学を中心とした学校等での麻疹(はしか)流行を経験したことから、麻疹を学校保健上の重要な課題として位置づけ、文部科学省との協力の上、麻疹の流行をなくすため、予防に有効なワクチンの2回接種を強く勧奨しています。これに基づき、本学入学試験合格者は、入学手続き書類として【麻疹(はしか)に関する確認書】の提出が必要です。合格者の年齢に関係なく、全員が対象となります。

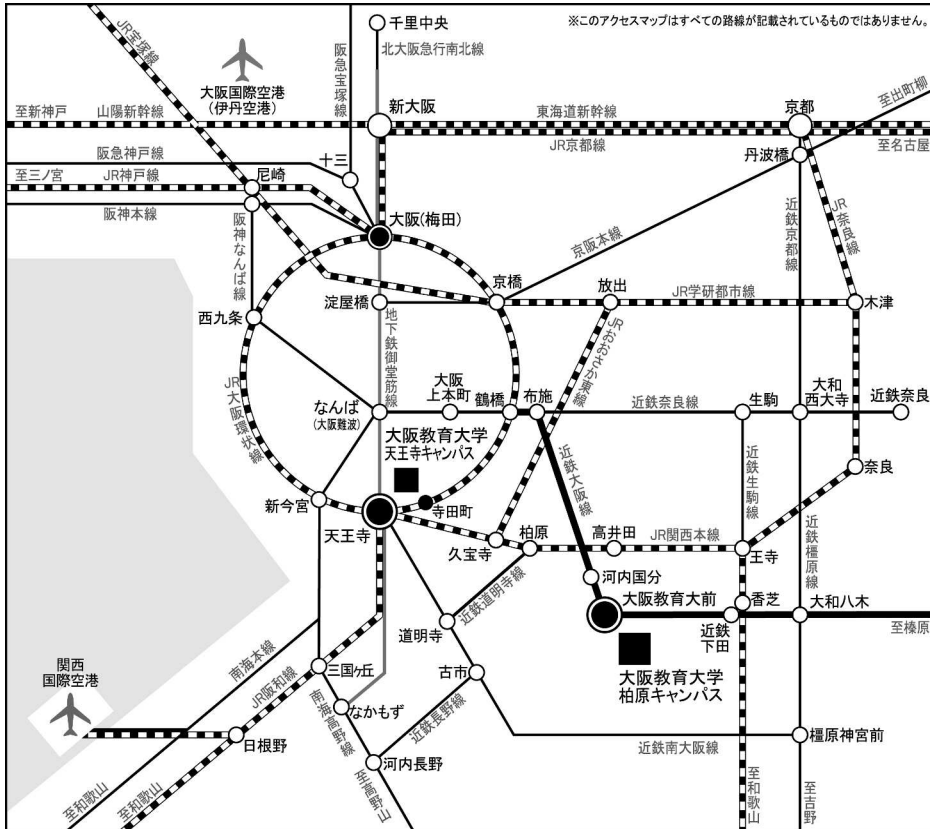
本学所定の【麻疹(はしか)に関する確認書】は、入学手続き関係書類等と一緒に送付されます。お手元に届いてから入学手続きまでの期間が短い場合があります。下記のフローチャートを参考に、早めにご準備ください。



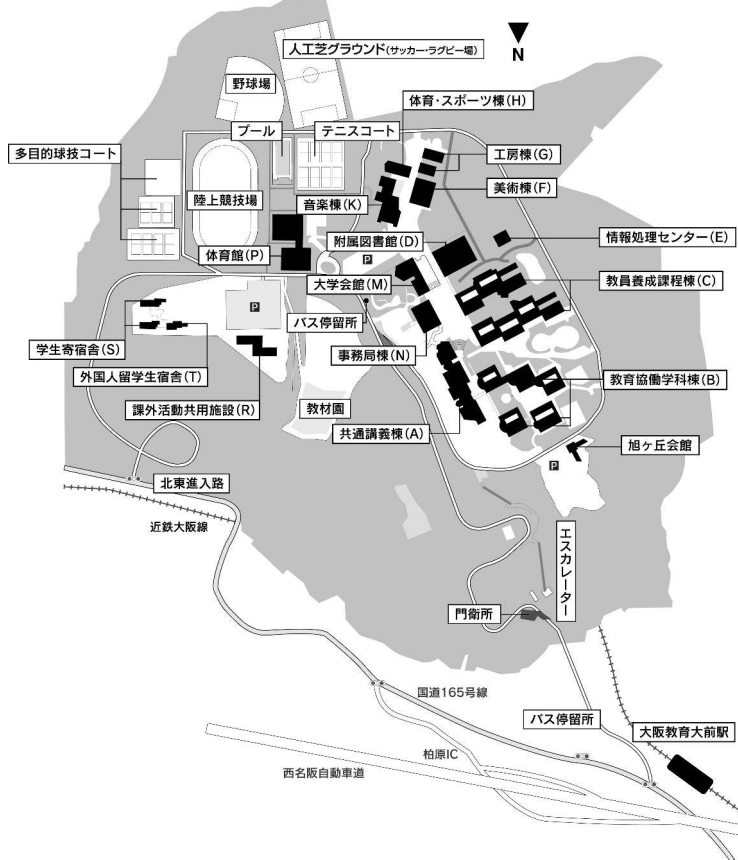
【麻疹(はしか)に関する確認書】については、入学手続きに関する事前のお知らせです。入学試験の出願や受験には関係ありません。

(問い合わせ先) 大阪教育大学保健センター
電話 072-978-3811(受付時間: 平日9:00~16:00)

大学所在地略図



入学試験場：柏原キャンパス



所在地 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

交通 近鉄大阪線「大阪教育大前駅」(「鶴橋駅」から約30分)下車 南東へ約1km

※エスカレーター(上り専用), 階段あり

大阪教育大学では、下記の入試情報及び学生生活案内についてウェブページでお知らせしています。
また、災害等により不測の事態が発生した場合もウェブページを利用して情報提供を行います。
(大学案内・募集要項はウェブページから請求できます。)

- ・教育学部（一般入試，推薦入試，私費外国人留学生）
- ・教育学部第二部（夜間）小学校教員養成5年課程第3年次編入学
- ・大学院教育学研究科（修士課程）
- ・大学院連合教職実践研究科（専門職学位課程）
- ・特別支援教育特別専攻科

ウェブページ <https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

問い合わせ先

大阪教育大学入試課

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

電話 072-978-3324 (入試課直通)

(受付時間：平日9:00～17:00)

FAX 072-978-3327

電子メール nyushika@bur.osaka-kyoiku.ac.jp